

助成年度：2020 年度

[所属] 琉球大学 農学部

[役職] 博士研究員

[氏名] 加藤 三步

[課題]

侵略的外来アリの侵入を阻む自然林とその直接的要因の解明

[内容]

グローバル化に伴い頻繁に国内に導入されるようになった外来生物への対策は、喫緊の課題である。特に、外来アリ類に関して侵入・定着したとの報告が増え続けているが、それらへの防除対策はいまだ不完全である。本研究では、沖縄島と奄美大島において外来アリ類の侵入が周辺地域よりも遅れている自然林に注目して、どのような要因が外来アリの侵入と定着を阻害し得るのかを調査した。

結果は、標高（気温）の高さと在来アリ類種数の多さが、外来アリ類の多様性に強く影響していることを示唆した。しかし、外来アリ類がベイト餌を占有する確率は、奄美大島では標高と在来アリ種数の交互作用で減少する一方で、沖縄島ではどの標高においてもおおよそ一定であった。前者は、在来/外来アリ種間の消費型競争が激しいが、後者はそうではないのかもしれない。二島間の在来アリ相は大きく異なっており、例えば、奄美大島ではベイトを占有した在来種のおよそ半数をオオズアリが占めていた（沖縄島では約 20%）。このようなアリ相の違いが今回の結果の違いにどう影響したのかは不明であるが、外来アリ類の侵入を阻害する“防人”としての能力が、在来アリ種間で大きく異なる可能性もあり得る。今後、上記の能力が強く備わっている在来アリ類を特定・研究していくことが、在来アリ類の保全と外来アリ類の防除を考える上で重要なポイントの一つになると考えられる。